

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	松本家主屋改修事業費					
担 当 課 係 名	文化財 課		文化財 係		作成者	高橋 仁
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち				総合計画の ページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護				
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成				100
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	4 目 文化財保護費		
事 業 期 間	平成 19 年度 ~ 平成 20 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☒ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	文化財保護法					
事 務 区 分	☐ 自治事務 ☒ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市民、国民のため、県指定文化財旧松本家住宅を
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	旧松本家住宅を修理保存し、公開活用を行う。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	県の指導と補助のもと、老朽・腐朽した旧松本家住宅の屋根・基礎・内外部・外構の修理工事を実施する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	全体工事改修進捗率	目標	%		41.0	59.0	
			実績	%		41.0	59.0	
			達成度	%		100.0%	100.0%	
	成果指標	修理箇所数 （屋根・基礎・内外部・外構）	目標	箇所		1	3	
			実績	箇所		1	3	
			達成度	%		100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)					6,970	9,983	
	人 件 費 (B)		—			4,036	3,963	
	職 員 数		—			0.50	0.50	
	職 員 平 均 人 件 費		—			8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト					11,006	13,946	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金					2,000	3,194
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源					9,006	10,752
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—			268,439	236,373
市民1人当たりのコスト(円)		—			350	449		

【事務事業の今までの成果】

経年劣化、腐朽の進む武家屋敷の環境を整備し、毎年の公開・活用に寄与している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県の補助事業で実施しているが、財政厳しき折県でも苦慮している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	毎年、整備された施設（武家屋敷等）により、市民及び多くの観光客に公開と活用を提供している。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	武家屋敷は木造であり老朽・腐朽が著しく、保存整備を継続していく必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
E	（改修事業終了）

一次評価診断図

